

「一者の法」のチャネル、カルラの旅立ちを祝う（抄）

【訳者注】訳した部分は、原文の冒頭部分と中ほどで、全体の半分にも満たない。選んだ中心は「一者の法」(The Law of One) の引用と解説である。これは大半が『ザ・シンクロニシティ・キー』には引用されなかった部分で、この翻訳書を読まれた方には、ぜひこれを読むことをお勧めする。我々の生きる現実のレベルが「次元」ではなく「濃度」(density) でなければならないことが、この論文でわかりやすく説明されている。(『シンクロニシティ』では少し説明不足だった。)

もう一つ目を開かれるのは、進化を説明する部分と、我々が遭遇するかもしれない ET に関する部分で、「進化」とは心の進化であって、進化論の形態の連続性とは全く関係がないと言われている。したがって ET の姿は多様だが、形でなく、心のレベルによって判断せよと言われているところは、はっとするのではないだろうか？ 結局、この宇宙は心（もっと言えば、愛）を中心にして動いているということである。

By David Wilcock

April 5, 2015, Divine Cosmos



「一者の法」(The Law of One) シリーズは、我々がこの地上で行うすべての霊的根拠である。2015年4月1日、「一者の法」資料の“チャネル”（口寄せ）として自己を捧げた女性 Carla Rueckert が、より大きな人生に向かって卒業（昇格）した。

おそらく、シンクロニシティの力と、彼女自身のウィットイナ人柄と、死後の生命の現実の最後の証として、彼女は、エイプリル・フールの日（4月1日）に肉体を後にした。

もっと面白いのは、彼女の今も存続している組織 **L/L Research** のロゴが、文学やミュージカルの古典的な“フール”ドン・キホーテのスケッチであることだ。

More
channeling
transcripts and
supplementary
Law of One info
L/L Research



この訃報は、悲しみや苦痛を共有することを意図したものでなく、この高度な才能をもつ魂の光と人生、および彼女が貢献した仕事を祝賀するためである。

「一者の法」は、過去 5 か月の間にさらに興味あるものとなった。そして我々は、今起こっていることのすべての詳細を共有し始めたばかりである。

カルラの他界は、この絶えず展開していく筋書きのもう一つの側面となった。我々は、彼女が苦しんでいた苦痛から、ようやく解放されたことを喜んでいる。



Carla Lisbeth Rueckart McCarty,

1943-2015

「一者の法」は、他のすべてのチャネリングが判断されるべき基準

「一者の法」シリーズ（1981-84）は、間違いなく、他のすべての現代のチャネリングが判断されるべきプラチナの基準である。

カルラ・ルッカートはこの仕事——Ph. D 物理学者 Don Elkins が書き写し役の Jim MacCarty と共におこなった、106 項目の質疑応答からなる一連のセッション——のチャネルの役を果たした。

カルラは、ある積極的な霊的存在に代わって、自分の肉体が言葉を話すあいだ、完全に意識を失っていた。彼女は目覚めたとき、自分の言ったことを何も覚えていなかった。

日常生活では彼女は敬虔なクリスチャンで、ケンタッキー州アンカレッジにある、地方の監督派教会の礼拝に出席し、聖歌隊で歌っていた。

この情報源そのものは、我々と同じような人々からなる惑星全体だと言っており、人々が一つの“社会的記憶複合体”へと融合し、現在は、我々の 3D の現実に対して、“6 次濃度”（sixth density）世界に存在しているのだと言う。

この情報源は初期エジプト人に重要な恩恵を与えたが、彼らの教えはやがて曲解された

この情報源は自らを Ra と名乗った。彼らの説明によると、彼らはポジティブな方向性をもつ秘教的な教えをエジプト人に与えたが、それらはすぐに、ネガティブなものに歪められてしまった。

これは、このグループの奉仕を、地上へと縛り付けてしまった恐るべき誤解であり——それが図らずも、今我々がイルミナティと呼んでいるものを創り出した。

「すべてを見る目」を含めて、我々が今見るイルミナティのシンボルの多くは、もともと、ラーによって我々に与えられたものであり、それらはポジティブな目的を意図するものだった。

「すべてを見る目」(All-Seeing-Eye) は、松果体（腺）または“第 3 の目”を表すもので、私はこれを『根源の場の研究』や私の古典的な [2012 Enigma](#) で論じた。

<https://www.youtube.com/watch?v=o1Hw8DVLw-A>

松果体に、本来、ネガティブなものはないのである。それは、我々の肉体自体の生理学的スターゲイト、次元相互間のポータルを開く器官である。

「その時代の僧侶や人民」は、ラーが我々に与えたポジティブなメッセージ——大ピラミッドの建設を含む——を急速に歪めてしまった。

「一者の法」第一セッションからの引用

ラーは、1981年1月15日の「一者の法」のそもそも最初のセッションで、何が起こったかの経緯を説明し始めた。それは Don が訊ねた 5 番目の質問に答えたものの中にある——

1.5 質問者：あなたのエジプト人に対する役割について、もう少し詳しく教えていただけますか？

<http://www.lawofone.info/results.php?s=1>

Ra：私はラーです。ラーという振動がすなわち我々の本体です。我々は集団として、あるいはあなた方なら、社会的記憶複合体というだろうが、集団としてエジプト人と呼ばれているあなた方の惑星の一種族と接触した。

我々の濃度世界の他の者たちも、同時に南米で接触した。そしていわゆる“失われた都市（たち）”は、「一者の法」に貢献しようとする彼らの試みの結果だった。

我々は、聞いて理解し、「一者の法」を法として広める立場にある者に話しかけた。

しかし、その時代の僧侶や人民は、急速に、我々のメッセージを歪め、そこから共感（同情）、本来、一体性がそれで成り立っている共感の要素を、切り捨てたのだ。

それ（共感）はすべてを包んでいるから、それはどんなものをも憎むことはできない。

我々がもはや、「一者の法」を述べ伝えることのできる適切な媒体を持たなくなったとき、我々は、あえて交わろうとしたが、今や偽善的になってしまった者たちから、身を引いたのだ。

いま Ra 集団と彼らの同盟者たちが戻ってきたと考えられる

劇的な、驚嘆すべき新しい展開が、2014年12月以降、現れ始め、ラーが戻ってきて、「ネガティブ・エリート」または「陰謀団」を敗退させようとする我々を、助けてくれているという兆候がある。

.....(数ページ省略)

宇宙は生きている

「一者の法」から抽出することのできる究極のポイントは、宇宙は生きているということである。我々自身を含め、我々の見るすべてを形成したある特異な、メガ・アイデンティティというべきものがある。

我々は究極的に、宇宙を創造した、より大きなインテリジェンスのホログラムである。分離は、創造者が自分自身を知るために創り出された一つの幻覚である。

我々は無知と恐怖と苦痛の中にあって、転げまわるが、そのすべては究極的に、我々の真理についての知識の欠如から生ずるものである。

意識があらゆるものを結び付けている。我々が自分自身を、すべてのもの、すべての人と、真に一体であると感じないとすれば、我々はいまだに“幻覚”の中に生きているのである。

我々は、何度も人生を重ね、多くの次元的レベルまたは“濃度世界”を通り抜けなければ、完全に忘却状態を脱却して、我々が本来、誰であり、何であったかを思い出すことはできない。

「一者の法」は我々が、他者のために生きるか（ポジティブ）、または自分のために生きるか（ネガティブ）、一つの道を選ばねばならない現実には生きていると教える。

我々が現在生きているレベル、“3次濃度”は、4次、5次、6次、7次と続き——いわゆる“真の色”濃度では、緑、青、インディゴ、紫——その後、再び“インテリジェント・インフィニティ”（知的無限）に回帰する。

ここでいう色は、物理的な色でなく、我々自身のものとオーバーラップする居住可能な存在地平を現実には創り出す、振動の波長を表している。

濃度は次元ではない

それぞれの濃度は、それ自身の3次元空間をもっている。多重濃度（世界）が同じ3次元空間に共存することができる。我々は今、そのうちの3つしか感知することができない。

我々自身の物理的実体の宇宙——この地球やその上に見るすべてを含めて——は、“黄”のレベルにあるにすぎない。我々は、赤やオレンジをも、鉱物/元素（1次濃度）、植物/動物（2次濃度）として見ることができる。

感覚をもった人間生命は3次濃度に存在している。我々は2次濃度の存在と相互交流できるが、彼らは、我々がもつような高度の自意識と知性をもたない。

より高い濃度（複数）はすべて我々の周囲にあり、我々が“振動（数）”を増していくにつれて、我々はそれらを見、それらの中に住むこともできるようになる。

次に引用する「一者の法」の一部は、地球に関するこの現象を説明している——

<http://www.lawofone.info/results.php?s=62#29>

62.29 あなたは、あなた方が地球と言っているものを、7つの地球として見なければならぬ。

そこには、赤、オレンジ、黄があり、やがてそこに、4次濃度の存在者のための、完成された緑色の場所（locus）があるようになり、それを彼らは地球と呼ぶだろう。

Graduation（格上げ）

我々の地球は現在、それ自身の4次濃度への“格上げ”に、きわめて近いところにおいて——これが「一者の法」で Harvest（穫り入れ）と呼ばれている出来事である。

「一者の法」資料を見つける前、何年にもわたって、私は、私の生きているうちにこの地上で起こる、何らかのメガ級の大事件について、驚くべき夢をずっと見ていた。

この夢は常に、深遠な霊的変容として、一瞬のうちに我々の存在の仕方を変えてしまうもの、聖書の“Rapture”（歓喜、昇天）の概念に近いものとして表現されていた。

これはまた必ず、壮大な、思いがけない、太陽から発するように見える、光の現象と結びついていた。

これらの繰り返す光景は、私を“アセンション”の問題を研究するように導き、そして究極的に、多くの異なった古代文化が、このような出来事が起こることを予言している、という発見に導いた。

私は最初、この世界的な予言のことを、グレアム・ハンコックの『神々の指紋』という画期的な本で、これが 1995 年に出てすぐに読んで知った。

同じ集団がこれらの予言を世界中に蒔いた

これらの文化は、常に変わらず“神々”からこうした予言を与えられており、神々とは進んだ科学的知識をもった ET のことであるらしい。

「一者の法」によれば、それは、Confederation（連盟）と彼らが呼ぶ、善意をもつ ET たちの統一された集団によって行われた——

6.24 質問者：現在、報告されている UFO の中には、この時代に他の惑星からここへ来たものがあるのですか？ それとも、そういう知識をあなたはお持ちですか？

<http://www.lawofone.info/results.php?s=6#24>

Ra：私は「無限なる創造者に仕える惑星連盟」のメンバーの一人だ。

この連盟には、ほぼ 53 の文明が所属し、それらは、ほぼ 500 の惑星意識複合体からなっている。

この連盟には、あなた方の惑星の出身で、あなた方の 3 次濃度を超える次元に達した人たちもいる。

そこには、あなた方の太陽系の内部の惑星存在も含まれる。また他の銀河系から来た惑星存在もいる。

それは、そのメンバーがすべて似ているわけではなく、「一者の法」に従って奉仕の団結をしているという意味で、本当の同盟なのだ。

これほど重要なことはありえない

この時までには、私は「一者の法」を読み始めており、すでにかかなりの研究をしていた。そして、それがこの問題について提供する新しい情報の深さに驚嘆していた。

もし、この“黄金時代”のようなものが本当に起ころうとしているのなら——私はそれを信ずるが——我々にとってこれほど重要な問題はありません。

“連盟”のメンバーと、我々の惑星に奉仕し保護してくれる ET の集団は、可能な限り多くの我々が、いよいよそれが起こったとき、この“格上げ”に確実に準備ができているように努力してくれている。

チャネリングには困難がつきまとう

「一者の法」は、チャネリングというものが、とても傷つきやすいものであることを証明している。正しい訓練と規律がなければ、ネガティブな者たちが簡単に言葉を操作することができるからだ。

この同じ理由で、我々は常に真偽を見分ける努力をし、我々の正しくないという感覚に合わないものを捨てなければならない。

「一者の法」シリーズは、ネガティブな集団を「オリオン連盟」(Orion Confederacy)と呼んでいる。宇宙計画の人々は、彼らを Draco と呼んでいる——他の集団もそこに入っているが。

“ドラコ”は確かに、オリオン座の恒星のいくつかを回る惑星上に、いくつかの前哨隊をもっていて、これは我々にごく近いものだ。このため「一者の法」は区別をしている。

カルラがよく言っていた私の好きな言葉がある——「チャネリングはとても簡単、うまくやるのはとても難しい」。

この重要な問題が論じられている箇所が「一者の法」の中にある——

12.15 質問者：この地球上の人間が「同盟」と「オリオン集団」を混同して、代わる代わる両方に呼びかけ、[聞き取り不能]からまた戻ってくるというようなことはありますか？

<http://www.lawofone.info/results.php?s=12>

Ra：私はラーです。地上の調整されていない、あなた方の言うチャンネルが、ポジティブな通信とネガティブな通信を、同時に受けるということは十分にありうる。

その混乱の根本にある者が、他者に対する奉仕の方向をもっているならば、その人物は世の終わりのメッセージを受け取り始めることだろう。

そのあり方の複合体の根本にある者が、自己への奉仕の方向性をもっているならば、この場合、ウソをつく必要のないその十字軍たちは、単純に、彼らを与えようと思っている哲学を与え始めるだろう。

あなた方の間で言われている接触の多くが、混乱し自己破壊的である理由は、チャンネルたちが他者への奉仕の方向性をもっているが、証明を欲しがって、十字軍たちのウソの情報に耳を傾けようとするからだ。そうすると彼らは、そのチャンネルの有効性を不能にしてしまうことができる。

なぜ証明がそんなに悪いことなのか？

ちょっと待って——あなたは証明を求めることが、ネガティブな影響力に道を開く可能性があると言っているのか？

そうです、全くその通り。ドン・エルキンズ（質問者）は、つまらない質問をしすぎると言って、しばしばラーに批判されていた。

これほど高度な情報源にとっては、本当に関心のあるのはただ一つ、我々が「一つ」である最も深い霊的レベルにおいて、我々に教えることなのである。

その意味は、彼らが論じようと思っている主たる問題が「一者の法」であり、いかにして我々はその理解に到達できるかの哲学だということである。

このような教えには、時代も時間ない。したがって同じ答えが、一万年後にも、今日と全く同じように貴重であろう。

ひとたびあなたが、宇宙の戦いや、いがみ合う ET の詳細な事情などに興味をもち始めたら、たちまちネガティブな者たちに乗じられるであろう。

実際、もしあなたが、純粋な霊的成長の哲学よりも、この種の情報にあまりにもこだわるならば、ポジティブな存在たちは、ネガティブな者たちに乗っ取られてしまうだろう。

ひとたびこんなことになれば、ネガティブな者たちは「ポジティブに変装し」、可能な限り“恐怖ポルノ”をバラまくだろう。そのとき、チャンネルが信用を失うことによって、諸々の予言は失敗することになる。

「守護者」は、自由意志がこの地上で完全に発揮できるようにしなければならない

「一者の法」を新しく学ぶ人々は必ず、なぜ、これらポジティブな ET が現れて、さっさと悪い奴らを成敗して、黄金時代をスタートさせないのかと言う。

まさにそういうことが最近、起こり始めたとはいえ、大量のネガティブな作用が、その過程で起こることを許されている。

ほとんどの人が理解していないのだが、ネガティブとポジティブの出来事のバランスが、この地上では、「守護者」(Guardians) と言われる監視集団によって、非常に正確に保たれている。

16.6 質問者：では、この…バランスということがあるために、守護者たちは、彼らのポジティブな極性を、完全にオリオンの接触から遮蔽することができないのですか？
そう考えていいですか？

<http://www.lawofone.info/results.php?s=16>

Ra: 私はラーです。それは一部は当たっている。実質的にバランスは、**ポジティブとネガティブの等しい量の流入を許している**、それは、その社会複合体の心/身/霊の歪みによってバランスが取られている。

したがって、あなた方の特定の惑星領域では、**ポジティブというより、いわば、あまりネガティブでない体験や刺激が必要になる**が、これは、あなた方の社会複合体の歪みが、ややネガティブに傾いているからだ。

16.7: 質問者：このようにして、一人ひとりの個人が、他者に対する奉仕を選ぶか、自己奉仕を選ぶかの、等しい機会をもてるように、全面的な自由意志のバランスが取られ

ているのですね？ そう考えていいですか？

Ra: 私はラーです。それでよろしい。

16.8: 質問者: これは「一者の法」の深遠な教えだと思います。ありがとうございます。
す。 <http://www.lawofone.info/results.php?s=16>

戦場の誰がどちらへの恐るべき洞察

多くの哲学が教示されてはいるが、ラーはまた、多くの技術的情報をも全体にわたって与えている——可能な限り高度な「一者の法」のコンテキストの言葉を使って。

「一者の法」資料の科学的な部分と、アセンションという出来事の議論は、はるかにより大きい情報集のサブセットにすぎない。

恐ろしく詳細な情報が、我々を取り巻く、ポジティブ・ネガティブ両方の地球外生命体と、彼らの間で戦われている戦争について与えられている。

我々地球人が、この戦争の内部の主たるターゲットである。両サイドが我々を、彼らがより有益と考える方向へ押しやろうと試みている。

その側面が紹介され、なぜネガティブな者たちが彼らのやっていることを許されているかを知った上で、再び我々は、有益な知恵の教えに戻る。

最も重要なことは、ネガティブな者たちは、この戦争に勝つことを許されていないということ、しかし確かにダメージを与えることはできるということである。

すべては集団的覚醒の一部である

ネガティブな行為や現象のすべては、それが集団的覚醒の導入に役立つから許されているのである。我々はいま、目の前でそれが起こっているのを見ている。

つい先週のこと、私はあるところで2人の酔っ払いとの会話に巻き込まれた。

彼らは2人とも、私が少しそれに触れると、同時にイルミナティについておしゃべりを始めた。2人とも私にぜひ聞いてほしいと言い、互いに相手を遮ってしゃべった。

私は、彼らの話していることだけでなく、もっとたくさん知っていると言おうとしたが、私の言うことを長く聞こうとはしなかった。

皮肉だったのは、酔っぱらった状態で、彼らは相手にしゃべらせようとしないことだった。全く滑稽だった。

私は一生懸命、両方の独白を同時に聞こうとした。ケムトレイル、連邦準備銀行、憲法——すべてがそこにあった。

同じようなことが、先日私が利用したデンバー国際空港でも起こった。しかしこのときは競争相手はいなかった。

十代の少年が大声で、長々とイルミナティのことをしゃべっていた。みんなが彼の言うことに耳を傾けていて、時々大きく笑ったが、誰もからかう者はいなかった。

この二つの遭遇は、このこれまでは隠され、秘密になっていた情報が、次第に主流になり始めたことを示す私の最近の経験の一部である。

「一者の法」は、インサイダーたちの知っていることと完全に一致する

イルミナティ学者がほとんど理解していない重要なことは、この同じグループが、我々の太陽系に広く植民地を作ってきたことである。我々のカネはすべてそこへつぎ込まれた。

1930年代以来、我々の政府はETの特性の著しい幅広さに、ますます深く巻き込まれるようになった。

この事実の究極の開示に備えて、彼らは映画やテレビ番組などで、情報とニセ情報をずっとリークしてきた。

私は、UFOや宇宙関係の“ブラック・プロジェクト”に深く関わっているインサイダーたちが、「一者の法」にある特殊な事実を、あまりにも多く、直接知っていることを発見して驚嘆したことが、何百回もある。

実は、最近発見して驚いたのは、この秘密の宇宙計画の背後にあるグループ、すなわち「陰謀団」、軍産複合体、またはイルミナティが、「一者の法」が実はどれほど正確なのかを、非

常によく知っているという事実であった。

もう一人の新しいインサイダー“ハリー”が、「一者の法」は絶えず攻撃されていると明かす

ルーク（新しく知ったインサイダー）は、我々がハリーと名付けたもう一人の高位のインサイダーを紹介した。彼らは、オーバーラップするものの他に、お互い同士知らない情報をもっている。

最近ハリーは、もし私に話すことをこれ以上続けたら、殺すと脅された。それで我々のつながりは実質的に切れた。ルークの方はまだ続いている。

ハリーの明かしたところでは、1990年代以降、「一者の法」資料について、大衆を惑わせる努力がずっと続いているらしい。

彼らはそれを、ネガティブで脅迫的なもののように見せようとしている。ある種の本やウェブサイトが出されて、大衆を混乱させ怖がらせようとしている。

彼らはまた、明らかにサーチ・エンジンを操作して、この資料について重要なことを見つけるのを更に困難にしている。

そのような工作に対抗して、私は「一者の法」グループのウェブサイトでこの本が注文できることを、ここで申し上げておこう。<http://www.llresearch.org/>

あなたはこのシリーズ全体を無料で読み、キーワードを <http://www.lawofone.info/> で探すことができる。これが今、私の必要とするすべての参照先となっている。

「宇宙計画」もまた、「一者の法」の第一巻を、一種の入学試験として読むように勧めている——あまりにも正確に真理を説明しているのだ。

もし人々の想像力に、それを取りこむほどの、あるいは理解できるだけの拡張力がなければ、その人たちは、これ以上このプログラムを先へ進める適格者ではない。

4 次濃度生命体の説明

「一者の法」と、UFO 関係の“ブラック・プロジェクト”で働いていたインサイダーから

私が聞いていたことの、多くの驚くべきつながりの一つは、地球外生命体に関するものだ。

「一者の法」シリーズは、もし 5 次濃度の存在が我々の前に現れるなら、それは、我々がよく知っているもの——通常の人間——に似るように調整された **thoughtform**（思考によって作られた形態）を帯びるだろうと説明している。

これに対し、4 次濃度の存在は、見かけは人間らしくても、それは人間と、この地上の動物界で見られる様々な生命形態の任意の一つの、混成の形をとるだろう。

どういうことかと言うと、昆虫、魚、哺乳類、鳥、あるいは爬虫類などの、さまざまな種類から、人間らしい形態に進化した生物が見られるかもしれない、ということである。

中でも最もよく見られるのは、2 本の腕と 2 本の脚をもつが、頭は、昆虫、魚、哺乳動物、鳥、あるいは爬虫類に見える生物である。

この現象はよく知られ、宇宙計画の内部で広く経験されている。数えきれないほどの人間に似た ET が存在していて、我々は会うことができる。

ET 生命体とは、実際にどんなものなのかを、私がインサイダーたちから聞く何年も前から、すでに、この予言は「一者の法」の中に発見されるのを待っていた。

プログラムされた進化が本当の進化

この現象は、進化が知的に (*intelligently*) 計画されたもので、ランダムではないということ、そして我々の銀河、隣の銀河を通じて、それは同じパターンに従っている、という事実によるものである。

これは大多数の人々にとって、信じられないことに思えるかもしれないが、科学的証拠はきわめて豊富で、私の番組と 2 冊の本で見ることができる。

<http://www.gaiamtv.com/david99>

我々の銀河の目標は、人間の姿をした知的生命体を創り出すことである。だからこそ意識は、それ自身の成長のために、分離し個別的に見えるものを経験するようになっている。

惑星によっては、これら知的人間は、我々が地上ですで見ている“2 次濃度”生命の、任意の種類から進化することもできる。

宇宙計画で人々が遭遇している ET の大多数は“4 次濃度”存在であり、その物的状態は我々自身の 3 次濃度に非常によく似ている——

90.5: 質問者: あなたは前に、5 次濃度の存在者は、我々地球惑星上の 3 次濃度の者たちに似ているが、4 次濃度存在はあまり似ていないと言われました。

<http://www.lawofone.info/results.php?s=90>

4 次濃度存在を説明していただいて、彼らが、なぜ我々に似ていないのか教えてくださいませんか？

Ra: 私はラーです。説明は「混乱の法」のもとで控えねばならない。

いわゆる乗り物である身体が多様である原因は、2 次濃度の身体的形態から継続している多様性の遺産である。

あなた方が身体的進化と呼ぶもののプロセスは、4 次濃度に至るまで支配し続けている。

知恵の道が、あなた方が大まかに思考と呼ぶものの力を洗練し始めてやっと、身体複合体のとして現れる形が、意識の指令をより直接に受けるようになる。

なぜ、5 次濃度存在が我々により似ているのか？

この聞き取りが進行するにつれて、エルキンズ博士は、なぜこれら 5 次濃度の存在が、4 次濃度の存在よりも我々に似ているのかを、知ろうと試みる。

その答えは、彼らは自分自身を、自分の選んだどんなものにもでも投影させることができ、したがって、我々に最大の安心を与えるような姿を選ぶということである。

90.6 質問者: ところで、この惑星の人々が現在、5 次濃度の存在に似ているとするなら、なぜそうなのか、私はずっと不思議に思っていました…

<http://www.lawofone.info/results.php?s=90>

もし私の理解が正しければ、進化のプロセスは普通、3 次濃度とその前の段階である 2 次濃度（サル）に似ていて、4 次濃度でまた洗練され、5 次濃度でさらに進むということで、この地上の人間は…

Ra: 私はラーです。あなたの質問は思い違いの上に立っている。あなたは我々のコメントが欲しいのか、それとも質問なのですか？

90.7 質問者: 私の思い違いについてコメントをお願いします、もし可能でしたら…

<http://www.lawofone.info/results.php?s=90>

Ra: 私はラーです。5次濃度においては、身体複合体の現れ方は、ますます意識する心の複合体にコントロールされるようになる。

したがって、5次濃度の存在は、一つの現れ方を解消して別のものを創ることができる。

だから、5次濃度の存在、あるいは存在複合体が、あなた方のような人々と交わろうと思えば、あなた方のような身体複合体の、化学的な、黄色光線の乗り物に似ることを選ぶだろう。

他の知的生命体で我々に似たものは、どれくらいいるのか？

我々の引用が次の質問に入っていくと、Don は、我々に似ている存在たちが、どれくらいいるのかという細かい点を訊ね始める。

90.8 質問者: なるほど。大体でいいのですが、もしあなたが他の惑星の3次濃度存在を、この惑星に移住させるとしたら、ラーの知識の範囲内で、どれくらいのパーセンテージが、群衆の中で気が付かないほど地球の我々に似ているでしょうか？

<http://www.lawofone.info/results.php?s=90>

Ra: 私はラーです。5パーセントぐらいだろう。

90.9 質問者: それなら、この宇宙の3次濃度の身体の形態には、かなり極端な多様性があるということですね。これは4次濃度の場合も同じだと考えられます。それは正しいでしょうか？

<http://www.lawofone.info/results.php?s=90>

Ra: 私はラーです。その通りだ。

我々はあなたに言うておくが、無限の創造の被造物が、見てもわからないほど自分に似

ていて欲しいという要求と、観察された人間らしい特徴が、3次濃度の自己意識の特徴を表すという想定の間には、大きな理論的な隔りがあるということだ。

ここには、ペア（夫婦）、社会的集団、人種といったグループ分け、また自己意識を環境の洗練やその意味を求めるのに用いる、特徴的な方法も含まれる。

90.10 質問者：ところで、ラーの3次濃度の形態の知識の範囲内で、宇宙存在の何パーセントくらいが、少しは我々と違って人間と思えるほどの身体をもっているのでしょうか？ 私の定義が大まかですから、大まかな話になると思いますが。

<http://www.lawofone.info/results.php?s=90>

Ra：私はラーです。そのパーセンテージはやはり小さい。おそらく13から15パーセントだろう。それは、3次濃度の活動のために、それぞれの必要な機能を果たす様々な2次濃度生命（環境）の能力のためだ。（訳注：人間の身体的特徴は、この自然環境に合わせて創られているということであろう。環境が違えば、知的生命体の身体も違ってくる。）

したがって、観察すべきは、自己意識を表す振舞いと、そのものの周囲の、生きて感覚をもつ環境との目的性をもつ相互作用なのであって、見た目の親近性が、あなた方に3次濃度形態の人間性を想定させるような、外的特徴ではないのだ。

我々自身といくつか近隣の“ロゴス”が人間の形態を選んだ

質問11を飛ばし12へ進むと、我々自身の地方的惑星システム（Logos）と、他のいくつかの近隣の惑星システムは、意識ある魂の進化のためのテンプレート（型板）として（その頃に人間らしい形態に達していた2次濃度の他の種類でなく）サル選んだということをお教えされる。

どの2次濃度生物を選んで、感ずる力を与え、人間的らしい3次および4次濃度の形態に引き上げるかは、それぞれの星、あるいは“ロゴス”にかかっている。（訳注：“ロゴス”は、「初めにあった」ロゴスと考えてよいだろう。）

情報源（一者の法）は次に、なぜ、サル選んだのか（宇宙）地方で選ばれたのかを憶測している。

90.12 質問者：この惑星上で進化してきた形態を選んだのには、理由があったのです

か？ もしそうなら、それは何ですか？

<http://www.lawofone.info/results.php?s=90>

Ra: 私はラーです。我々の“ロゴス”といくつかの近隣の“ロゴス”が、ほぼ同じ開花の空間/時間に、二本足直立歩行の 2 次濃度のサルを形態として選んだのはなぜなのか、我々にはよくわかっていない。

我々の想定するところでは——これは単なる意見だという点ではあなた方と同じだが——我々の“ロゴス”は、いわば将来の進化をさらに隠す (veiling) ことに興味があって、この 3 次濃度の存在に、**言語が発達して (将来の) テレパシーという観念伝達に完全に優る**ような、ほとんど完全な可能性を与えたということだ。

また我々の想定では、いわゆる対面式の親指は、この隠す過程を強化するすぐれた手段とみなされて、心の力 (で物を動かし造る能力) を再発見させるよりも、この 3 次濃度存在が、その身体に表現された形によって道具を作り、握り、用いるように導くためだった。

(以下、約 10 ページ略)